

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 さくら 組	5 月 30 日 (金)	吉田 佳名恵

● 実施計画

活動テーマ		
<ul style="list-style-type: none"> ・雨と雪はどこからくるか ・雲の種類や流れを見てみよう 		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
<ul style="list-style-type: none"> ・散歩の中で雲の様子を観察していた。 ・教材の雲の画像を貼ると、「こうやって雨が降っているんだね」と興味をもっていた。 ・水遊びの際に、シャワーをすると屈折してできる虹をみて喜ぶ姿が見られた。 		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
9:30	<p>雲の画像を印刷したものを見てどのような名前かを見て画像から思ったことを話す。</p> <p>雨が降る仕組みをイラストと言葉で理解する。</p> <p>雨が降った日に雲や雨の様子を観察する。</p> <p>雨の日散歩に観察することを全員で話し合う。</p> <p>観察するにあたって必要なものを考える。</p> <p>必要なものを自分で準備する。</p>	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雲の画像が自然と視界に入るように部屋に掲示する。 ・雨の日散歩を計画する。 ・散歩中では雲の様子を観察する時間を設ける。 ・話し合いではじっくりと時間を取り、全員が発言できるように普段から話し合いを繰り返す。 ・図鑑を用意しておく。 <p>【活動使用教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図鑑 ・画像を印刷したもの ・レインコート ・長靴 ・カラー帽子 ・ペットボトルバッグ ・ホワイトボード ・ホワイトボード用マーカー
別日9:30	<p>出発準備をする。</p> <p>雨の中での雨の音や雲の動き、雨の中に出てくる昆虫の様子などを観察する。</p> <p>花に落ちてくるしずくを観察したり、花や壁にいる昆虫を探したりする。</p> <p>会話をしながら水たまりに飛び込んだり水たまりに落ちてできる波紋を見たりと楽しむ。</p>	<p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段から雲の様子や形、天気の様子をみんなで観察しておく。 ・話し合いを繰り返す。 ・レインコートを用意してもらう。 ・雲の仕組みをイラストを用いて話しておく。
11:00	<p>帰ってきてから、気づいたことを発表する。</p> <p>でた意見をまとめ、振り返る。</p>	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・壁に掲示している雲の種類を見ることにより興味のきっかけになっている。 ・雨天の際の雲の様子には「〇〇の雲の形と一緒にじゃない」などと自分なりに解釈して観察をしていた。 ・雨の日の散歩では、天気の様子を観察するよりもかたつむりを見つけることがメインになった。 ・水たまりに飛び込むことで水の飛び方や色などに気づきがあった。 ・話し合いをし、意見を言い合うことを想定していたが、保育者に意見を言うことが多く、子ども同士での意見の交換ではなかった。 ・海の水が空に上がって雨になっていることに驚きを感じていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段雲を意識している様子が見られなかったため、改めて観察をしてみると発見があったようで楽しそうにしていた。 ・「あの雲、乱層雲に似ているね」などと言っている姿が見られた。 ・「雨の音はどんな音？」と聞くと「レインコートに当たるとポツポツ聞こえる」などと感じたことを言葉にしていた。 ・水たまりを発見し、最初は恐る恐る入っていたが、次第に思い切り足を交互にばたつかせ水が弾ける様子を楽しんでいた。 ・意見を言う際には質問の意味を理解していなかったり、言いたいことを上手く言葉にすることができなかったりと自信のない様子が見られた。そのため、全員が話すことができるように話を振ったり、簡単な質問を言うことで少しずつ意見が上がった。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・普段気にしていない点でも子ども達の目から見ると想像していなかった感じ方や捉え方があるため、改めて面白さを感じられた。 ・実際に行なうまでに子ども達の興味のあることから広げていくことに難しさを感じられたが、保育者も一緒になって天気について学ぶきっかけになったのでやってみてよかった。 ・今回は実験のような取り組みをしなかったため、また実験をして細かなところの仕組みを視覚からもえられるようにしたいと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気象の雲と雨の日散歩との活動のコラボが方向性のブレを生んでるように思う。 ・子どものなぜを広げられるような子どもたちの反応の予測を保育士が十分にしておくことも必要だと感じた。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 さくら 組	9 月 19 日 (金)	吉田 佳名恵

● 実施計画

活動テーマ	
野菜を観察しよう	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
野菜を苦手とする園児がいるが、少しずつ食べることができるようになってきている。処理されている野菜の元の形を分かってきている事もあり、食べる際に何の食材か理解して食している。	
活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
時間	内容
9:45～	<p>野菜について問いかける。</p> <p>図鑑を見て好きな野菜を調べる。</p> <p>葉物、根菜などの野菜を虫眼鏡で観察する。</p> <p>それぞれの思ったことを発表してもらい、ホワイトボードに記入していく。</p> <p>クイズ形式で土の中に育つ野菜と、土の上に育つ野菜を仕分けする。</p> <p>図鑑を用いて正解のものを確認していく。</p> <p>バケツの水の中に野菜を入れて沈むもの、浮くものをクイズ形式で確かめていく。</p> <p>なぜ沈むか、浮くかをみんなで話し合う。</p> <p>疑問があればその事柄を追及していく。</p>
	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜について日頃から関われるように食事の際や散歩の際に話をしておく。 苦手な野菜に関しては体のどの部分に影響してくるかを話せるようにしておく。 野菜を給食からもらえるように手配しておく。 クイズ形式で考える時間も楽しい時間となるようにする。 <p>【活動使用教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図鑑 野菜の絵本 バケツ 野菜 ホワイトボード ホワイトマーカー <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜の図鑑を置いておき、子ども達が見れるようにしておく。 給食の際など野菜にちなんだ話をしておく。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・事前に野菜の図鑑や絵本をみていたこともあり、野菜の実物を見た際に図鑑の中から探し当てる様子があった。</p> <p>・野菜に関しては切れ端のみの提供となったが、断面や葉っぱの部分の観察を楽しんでいた。</p> <p>・クイズ形式にしたこともあり、集中を最後まで保つことができ、じっくりと臨むことができた。</p> <p>・沈むものと浮くものの違いに関してはそれぞれの見解があったが、導き出すには時間を要した。</p> <p>・切れ端を水につけて育つか試した。</p>	<p>・以前は保育者に聞いていたことも自分で自然と図鑑で調べるようになってきている。相談しながらみているが、一方通行なことが多い。</p> <p>・切れ端であったが、すぐに野菜の名称がわかり、虫眼鏡を使ってじっくりと調べていた。虫眼鏡でみている景色が楽しかったようで、机や椅子、玩具などを虫眼鏡で観察している園児もいた。</p> <p>・クイズ形式で仕分けをしたことにより、前のめりになって答えようとする姿があった。</p> <p>・沈むものと浮くものに関しては様々な意見を出していたが、答えにたどり着くまでに時間がかかった。しかし、土の上に育つものと土の中に育つ物での違いに気づくと驚きがあった。</p>

振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・野菜についての気づきを得られたのがよかった。保育者も知らない事もあり、一緒に見解にたどり着けることが面白いと感じられた。</p> <p>・虫眼鏡に関しては野菜だけではなく子どもたちの好奇心でいろいろなものを観察しようとしており、大人にはない発見が面白かった。</p> <p>・ずっと話をしているだけでは、集中力がなくなってしまうため観察や水に浮かせるなど実験ががかったことにより楽しんで行うことができた。</p>	<p>・野菜という大きな漠然とした概念から、突き詰めた事を絞ってその先を子どもたちと遊んでみるといいのかなと思う。ただ大人が決めたルートでは主体性を導けないとおもうので、気づきがあった事を深ぼるのか、浮く野菜と沈む野菜を深ぼるのか、を考えながら進めていくと研究としては深みが出るのではないかと思う。虫眼鏡で野菜を見て色々な発見があった事を発表して皆で他者の意見を聞き合って面白がってる様子が楽しそうだった。</p>

実施クラス				実施日		実施保育者名
5	歳児	さくら	組	11	月 日 ()	吉田 佳名恵

● 実施計画

活動テーマ	
トリックアートに触れて不思議を発見しよう	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
図書館で借りてきていたトリックアートの本をみんなで一緒に見合う様子があった。同じ絵なのに違う見え方があることに驚き、会話を楽しむ様子があった。	
活動スケジュール	環境設定・準備物
時間	内容
9:30	<p>トリックアートの絵本に触れる どんなものがよかったかそれぞれ発表する。</p> <p>掲示物を見て自分なりにトリックアートの不思議を観察する。</p> <p>トリックアートを見ることによってどのように見えるか言葉にして伝える。</p> <p>見る向きで変わる絵を実際につくってみる。</p> <p>完成したものを観察し、難しかったところを発表する。</p>
	<p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トリックアートの絵本や図鑑を用意しておく。 ・トリックアートの資料を掲示しておく。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図鑑や絵本 ・画用紙 ・クーピー、クレヨンなどの画材 ・のり ・はさみ

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・図鑑や絵本を置いておくことで近くと遠くから見えるものが違って見えることに不思議そうにしていた。</p> <p>・掲示物を見てそれぞれ感想を述べており、感覚の違いが見られた。</p> <p>・見る向きで変わる絵に関しては、それぞれ好きな絵を描きはさみで切り取っていった。わかりやすいように裏に数字を書き、同じ数字のところのにりを張り付けていくことで混乱もなくスムーズに作成していた。</p> <p>・どんなところが難しかったか自然と会話の中であがっていた。</p>	<p>・他児と話したり、感じたことを保育者に共有しようとする姿が見られた。</p> <p>・会話の中でふと「これはトリックアートだね」とあがることもあり、自然と子どもたちにもどういったものか入っていているようだった。</p> <p>・見る向きで変わる絵では、「〇〇描こうかな」などと他児と楽しそうに話しながらもじっくりと取り組む様子があった。その絵を切ってしまうことに少し不安な様子だったが、完成を見て「わーちゃんと絵が見える」などと納得している様子だった。</p> <p>・「次はどうするんだっけ？」と言った園児に対して他児が「ここはこうするんだよ」と教える姿があり、知っているものを自ら共有しようという姿勢に変化してきている。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・見え方が人によって違いがあることを知るきっかけとなっていた。</p> <p>・トリックアートから会話の広がりであったり、知識として知れたり今回でそういったものがあるということを知る機会になれたのでよかった。</p> <p>・自分の作ったものを切るということに抵抗があり、大人は完成形を見通して割り切れるが、子どもたちにとってはどの段階でも作品に対する愛着のようなものを感じ取ることができた。そういった感情を大切にしつつ、活動を進めていけるようにしていきたい。</p>	<p>トリックアートはとても楽しそうに活動していた。大人でも、見える不思議が面白いので会話が弾んでいることに納得である。</p> <p>そこからの活動の広がりを自分でも作ってみるはなかなか難しく、それは挑戦したいと思わないとなかなか強制的な活動で終わってしまうことにもなるので、保育者側の柔軟で豊かな経験、もしくは子どもと一緒に楽しむ姿勢が大切なのではと思う。</p> <p>自分の作品を意気揚々と説明してくれる様子に活動の面白さが伝わって来た。</p>

実施クラス				実施日				実施保育者名	
5	歳児	さくら	組	1	月	23	日	(金)	吉田 佳名恵

●実施計画

活動テーマ
おかね ～おかねってなんだろう～ お金ってなあに？

活動テーマに関する 日頃の興味関心について

- ・日頃、紙幣や硬貨に関わることが少なくなってきているためお金に関わる機会をつくっていく。
- ・お店屋さんごっこをしている際に、タッチ決済をするふりをしたりペイペイをしていたりする。
- ・お年玉をもらった話をしていた。

活動スケジュール

時間	内容	環境設定 ・ 準備物
9:30	お金に関して知っている内容をそれぞれ発表してもらおう 疑問に思ったことから話を広げていく。 昔の紙幣などを見て思ったことを発表する。 お金はどのようなものか知る。 模擬紙幣や模擬硬貨を観察する。 お金を製作する。 お金を使って遊びの中で計算をし、お釣りとはいかを知る。	【環境設定】 ・壁に日本のお金や昔のお金、外国のお金の見本を掲示しておく。 ・普段お家の人がどのような支払い方法をしているか、会話の中で聞いておく。 【事前準備】 ・ノートとなるもの ・送られてくる模擬紙幣等 ・お金製作用の用紙 ・画材

●実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・お金はどんなものがあるか子どもたちに聞き、ホワイトボードに記入していった。 ・昔はお金ではなくお餅をあげていたということを話した園児がいたため、そこから物を交換していた話に発展した。 ・なぜ昔のお金には穴が空いているか、お金の載っている人は誰か、など疑問が上がっていったことに対して追求していった。 ・模擬紙幣、硬貨を観察し絵柄は何が描いてあるか話合った。 ・さくら組専用のお金を製作した。	・真っ先にクレジットカードがでてきたが、家庭の人が現金を使っていることも多いようで紙幣や硬貨の名称を言っていた。 ・お餅をあげていたと家で勉強しているもので言っていたと発言があり、そこから昔のお金についての話が始まった。小判は絵本等で知っている子がおり、他には穴の空いているお金が多いことに気づいた子もいた。そこから現在のお金はどのようにして5円と50円しか空いていないのかと疑問に思っていた。今回は保育者の方でどうしてなのかを伝えた。 ・オリジナルのお金を製作し、お店屋さんごっこの仕事について繋げた。

●振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
----------	--------------

<ul style="list-style-type: none">・子どもの気づきから広げていくことでより関心があり、理解も深まると感じられた。・身近なお金に関する事で、お年玉をもらったということもあり普段よりも集中して取り組んでいた。・他クラスの園児が壁に掲示してあるものを見て感想を言った際に「〇〇はこうなんだよ」と知り得たことを言葉で伝える様子もあり、相手に伝える力や知識ができてきたと感じられた。	<p>お金の成り立ちの理解得られたようだが、金融リテラシーの土台をこの活動から得られるのはなかなか難しく、このテーマは机上での活動より保育を広げていく課題はある様に思う。子ども自身がお金の使い方にも考えが及んでいた様なので、その点はねらいと合致していたのかと思う。</p>
---	--